

抄 信一念義

一．題意

信文類では信一念の積の前に大菩提心の積があって、信樂の中には願作仏心の徳も度衆生心の徳もすべて摂められてあることを示し、それを受けてかるがゆえにこの信心開発の立ちどころに往生浄土並びに仏果の悟りを開く因が決定すると顕わされるのである（Ref：大江「安心論題講述」P137）。

「信一念義」とは、成就文の「乃至一念」の一念に信心開発し、たちどころに涅槃の真因満足することをいう。一念は十七願成就の「諸仏如来の名号讚歎」を聞信した「機受」を顕すからである。

二．出拠 が拠り所の御文である。

(一) 凡就=往相回向行信、行則有=一念、亦信有=一念（「行一念積」全2-34、註187）

(二) 其按=真實信樂、信樂有=一念。一念者、斯顯=信樂開發時剋之極促、彰=廣大難思慶心也。「信文類」（末）信一念積（全2-71、註250） 「時剋積」出拠

(三) 一念といふは、信心をうるときのきはまりをあらはすことばなり（『一多文意』（全2-605、註678）

三．^{しゃくみょう}積名：「積名」とは、名目（教義概念）を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

「信」とは「信樂」をいい、願力に対し疑いがないことをいう。

「一念」とは、「時剋（念）の極促（一）」をいい、信心の初発の時をいう。

「極促」に^{えんそくたい}延促対と^{しゃそくたい}奢促対の二説あるも、ここでは「^{えんそくたい}延促対」である。

「乃至」とは、信心の相続をいい、^{えんそくたい}延促対の「延」に当たる。

四、^{ぎそう}義相

(一) 乃至一念を信の一念とみなす理由

ア) 異訳の「如来会」では「一念の浄信」と説かれていることに基づく。

イ) 第十七願成就文を受けてその「機受」を顕した経文だからである。

(二) 乃至一念の意義

時剋の極促

・定義：成就文の「一念」とは信心の初発の時をいう。

効果：受法得益同時

「聞其名号 信心歡喜」の即時に「往生住不退転」位に就く利益に与る。

(Ref) 諸有衆生、聞=其名号、信心歡喜、乃至一念、至心廻向。願^レ生=彼国、

即=得往生、住=不退転。（『大經』成就文（全1-24、註41） 受法得益同時の出

拠）

信相の一念

「信心には、二心がない（決定心という）から、「一念」とも「一心」とも言う。

(Ref) 言一念者、信心無=二心、故曰=一念、是名=一心、一心則清浄報土真因也。（信一念積 「信相積」の出拠）（全P2-72、註251）

五．結び

ア) 成就文の「乃至一念」の「一念」は信心開発の一念（信の一念）を指す。

イ) この「信の一念」の即時に、往生住不退転が決定する（受法得益同時）。 以上